

株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
第157期 中間報告書
2022年4月1日～2022年9月30日



温室効果ガス排出を低減し
建物のサステナビリティを高める
ヴェリタス・ビル(フィンランド)
詳細はP6トピックスをご覧ください。



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第157期中間期(2022年4月1日から2022年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2022年11月

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

第157期中間期の総括と下期の見通し

当期上半期の当社グループの事業環境は、引き続きエネルギーコストを中心とする投入コスト高騰の影響を強く受けましたが、継続的なコスト削減、販売数量および価格の改善により吸収することができました。建築用ガラス事業は、欧州を中心にコスト高騰の影響を価格転嫁で軽減し全地域で好調でした。また太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調でした。自動車用ガラス市場は、引き続き自動車生産制約の影響を受けましたが、期末にかけて解消する兆しが見られ、またコスト上昇の影響を軽減するための価格転嫁も一部実現することができました。高機能ガラス事業も多くの分野で強い需要の恩恵を受け、高い収益性を維持しています。

一方で、ピルキントン社買収に伴って発生した欧州における自動車用ガラス事業ののれんおよび無形資産全額(488億円)について減損損失を計上しました。なお、これは、主に欧州の金利上昇に伴い減損テストに使用する割引率が上昇したこ

とによるものであり、自動車生産台数回復の兆しや価格転嫁実現が見える中、当事業が中期的には改善するとの見方に変更はありません。

その結果、当中間期の売上高は3,757億円(前年同期は2,907億円)、営業利益は144億円(前年同期は127億円)と売上高および営業利益は前年同期比増収増益で業績予想を上回りました。その一方で、前述の減損損失を含む個別開示項目費用(純額)449億円を計上したため、親会社の所有者に帰属する四半期損失は388億円(前年同期は86億円の利益)と赤字になりました。

下半期の事業環境については、高騰した投入コストの影響を引き続き強く受ける見通しです。また潜在的な景気減速リスクにも注意が必要ですが、当面建築用ガラス事業、高機能ガラス事業は堅調が続く見込みであり、自動車用ガラス事業においては自動車生産の制約が徐々に解消されていく見込みです。全事業での通期営業黒字による営業利益予想達成を目指します。

中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」の進捗

当期で2年度目となる中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」(2022年3月期～2024年3月期)の上半期における主な進捗は、以下の通りです。

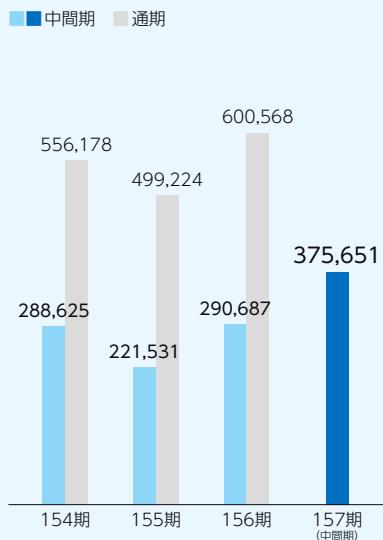
「事業構造改革」に伴う高収益事業の拡大については、マレーシアの既存フロート窯に太陽電池パネル用ガラスを製造するためのオンラインコーティング設備を新設することを決定しました(2024年3月期より生産開始予定)。また市場拡大が続く南米アルゼンチンで新フロート窯の建設が完了、生産を開始しています。「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、中国の大手自動車用ガラスメーカーと中

国の自動車用ガラス事業統合について契約を完了しました。「財務基盤の回復」については、前述の減損損失計上後も自己資本比率は引き続き15%超であり、目標の10%以上を維持しています。今後ともより強固な財務基盤の回復を推進して参ります。

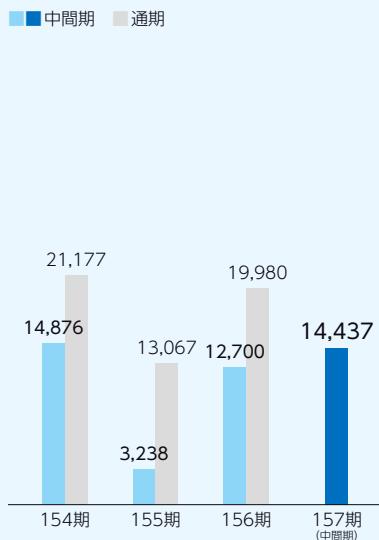
配当

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、持続可能な事業の業績をベースに、安定的に配当を実施することを利益配分に関する基本方針としています。そのため、財務基盤を強化し、将来の事業展

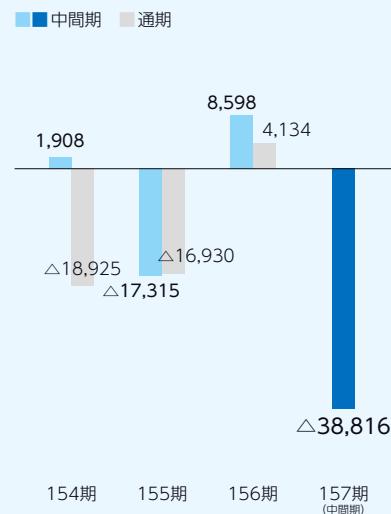
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (単位:百万円/△は損失)



注：上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

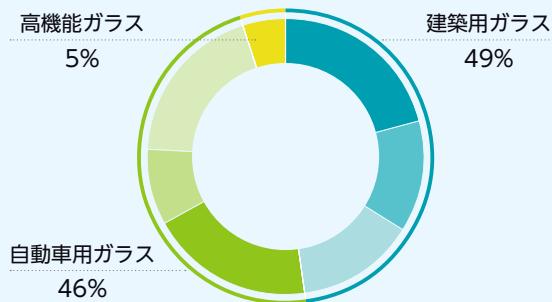
開のために適正な内部留保を確保した上で、配当金を決定いたしました。

当中間期の普通株式配当につきましては、当社グループの業績、財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ではありますが、その実施を見送らせていただくことといたしました。

株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。当社グループは、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、今後、少しでも早く復配できるようグループ一丸となって収益改善に全力を傾けていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業別連結売上高構成比



■ 建築用ガラス	欧州	21%
■ 建築用ガラス	アジア	13%
■ 建築用ガラス	米州	14%
■ 自動車用ガラス	欧州	19%
■ 自動車用ガラス	アジア	9%
■ 自動車用ガラス	米州	19%
■ 高機能ガラス		5%

連結損益計算書(要旨) (単位:百万円/△は損失)

	第157期(中間期) 2022年4月1日～ 2022年9月30日	第156期(中間期) 2021年4月1日～ 2021年9月30日
売上高	375,651	290,687
営業利益	14,437	12,700
税引前四半期利益	△34,543	14,727
四半期利益	△37,006	9,557
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	△38,816	8,598
基本的一株当たり 四半期利益(円)	△438.08	84.02

連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

	第157期 (中間期) 2022年9月30日	第156期 (2022年3月期) 2022年3月31日
非流動資産	660,391	637,032
流動資産	347,043	302,249
資産合計	1,007,434	939,281
負債合計	824,469	769,926
資本合計	182,965	169,355
負債および資本合計	1,007,434	939,281

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円/△はマイナス)

	第157期(中間期) 2022年4月1日～ 2022年9月30日	第156期(中間期) 2021年4月1日～ 2021年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	11,419	14,475
投資活動による キャッシュ・フロー (フリー・キャッシュ・フロー)	△20,916	△15,861
財務活動による キャッシュ・フロー	△9,497	△1,386
現金および現金同等物の 四半期末残高	1,503	△11,854
現金および現金同等物の 四半期末残高	55,209	40,736

注: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

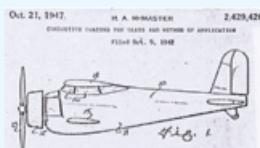
ガラスの可能性を広げるコーティング技術

住まいや建物、乗り物など様々なところで使われ、私たちの暮らしに欠かせないガラス。この古くて新しい素材は、その組成や表面構造を変える方法のほか、ガラス表面に他素材をコーティングする方法により新たな可能性を次々に開拓してきました。このコーティング技術を世界で初めて開発したのが、当社グループのリビー・オーエンス・フォード社（現ピルキントン・ノースアメリカ社）でした。

始まりは飛行機から ～世界初のコーティング技術開発～

1940年ごろ、世界各国がプロペラ飛行機の開発を競う中、大きな問題となっていたのがガラスの曇り。パイロットにとってコックピットガラスの曇りは命取りになりかねません。この難問を解決するため、米国リビー・オーエンス・フォード社（当時）はガラスに酸化スズをコーティングする画期的な技術を開発。酸化スズに通電することで発熱させガラスの曇り防止に成功したのです。

ガラスコーティング技術はその後も進化を続け、NSGグループの最新オンライン・コーティング技術は、様々な先進分野で高い評価を得ています。



創エネルギー 太陽光発電用ガラス

【薄膜太陽電池パネル用】

世界最大の薄膜太陽電池メーカーであるファースト・ソーラー社に透明導電膜付きガラス (NSG TEC™) を供給。再生可能エネルギーの普及に大きく貢献しています。



【BIPV (建材一体型太陽光発電) 用】

窓などを利用して太陽光発電を行う新技術「BIPV (建材一体型太陽光発電)」の領域でもNSG TEC™は重要な役割を期待されています。



情報通信社会への貢献

透明導電膜付きガラス

高耐久のNSG TEC™は、デジタルサイネージ、タッチパネル、エレクトロクロミックなど、様々な用途で情報通信社会に貢献。



安全と健康を守る

抗菌・抗ウイルスガラス

タッチパネルや建築用途など、菌やウイルスの繁殖が気になる幅広い分野で活躍。



省エネルギー&快適性向上

エコガラス

特殊金属膜をコーティングしたLow-E (低放射) ガラスを組み合わせた複層ガラス。



視界をよりクリアに

低反射ガラス

ガラス表面の光の反射を大幅に低減してよりクリアな視界を実現するガラス。



光を制御

防眩・防汚ガラス

光散乱、反射防止、希望する光色への光変換、防汚等の様々な光制御機能により、農業分野でも活躍。



国際ガラス年2022特設サイトのご紹介

2022年は国連が定めた「国際ガラス年」。NSGグループはこれを記念し、自社ホームページにおいて、コーティング技術を含む、ガラスの魅力を様々なコンテンツとともに発信しています。



<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/iyog-2022>

南米アルゼンチンで 新フロートガラス工場が稼働開始

本年10月、アルゼンチンで2番目となるフロートガラス工場の建設が完了し、ガラス生産を開始しました。

この新工場は、同国ブエノスアイレス州ロスカルダレスに建設され、アルゼンチン唯一のフロートガラスサプライヤーである当社グループのVidrieria Argentina S.A.社が運営します。アルゼンチンおよび南米地域では、ガラスの供給を上回る強い需要が続いており、当社グループ中期経営計画「リバイバル計画24 (RP24)」に掲げる施策の一環として、今後、同地域の旺盛な建築用と自動車用ガラス需要に対応していく予定です。



メタシャイン®コスメ！ オーロラのような上品な輝き、 ポイントメイク化粧品用Auroraシリーズ新発売

本年8月、アイシャドウや口紅等のポイントメイク化粧品用光輝材「メタシャイン®Auroraシリーズ」を新発売しました。

メタシャイン®は、当社独自技術により、低アルカリ・低重金属・ボロンフリーなガラスフレック（自然由来指数®100%）に、金属や金属酸化物をコーティングした光輝性無機顔料です。

メタシャイン®Auroraシリーズは、化粧品マーケットで高まる環境配慮ニーズに対応しつつ、光輝感と粒子感の程よいバランスにより、オーロラのような上品なきらめきを実現する、肌にも環境にも優しい化粧品素材です。

※ISO16128に基づく



自動車用ガラス新技術「ADAS (先進運転支援システム) カメラ用 防曇機能付きガラス」が「日本セラミックス協会技術賞」を受賞

当社の自動車用ガラスの新技術が、セラミックスの科学・技術に関し製品開発や工業化等に特に顕著な業績のあったものに対して贈られる、第76回日本セラミックス協会技術賞を受賞しました。

今回受賞した「ADAS (先進運転支援システム) カメラ用防曇機能付きガラス」は、カメラ前方のガラス部分の曇りを防止し、運転支援システムを正常に作動させる技術で、これまで実用化の難しかった長期間にわたって防曇効果が維持できる高耐久・高性能な防曇機能を実現するものです。今回の受賞では、この技術がADASの安全性を高めるとともに、自動車にとどまらず、ドローンや家電などへの用途展開も期待されることが高く評価されました。

現在、このガラスは複数の車両モデルに採用され、その安全性向上に貢献しています。



日本のガラス製造業初！ 温室効果ガス削減目標がSBTi の認定を取得

2022年6月、当社が設定する2030年までの温室効果ガス排出削減目標が、日本のガラス製造業として初めてSBTiニシアティブ(Science Based Targets Initiative=SBTi)に認定されました。

本年5月に公表した、2030年までに温室効果ガスの排出量を2018年対比30%削減する目標が、「産業革命前からの気温上昇を2℃より十分低く保つ」目標であるとして、正式に認定されたものです。

当社グループは、板ガラス製造業として世界で初めて水素、バイオ燃料による製造実証実験にそれぞれ成功したほか、世界各地の事業所敷地内への太陽光発電設備や蓄電設備の設置、再生可能エネルギーの導入拡大等、様々な温室効果ガス排出削減の施策を進めています。



※SBTi認定取得済企業は世界で1,803社(うち日本277社)(2022年10月3日現在。環境省資料による)

表紙写真について

環境負荷低減に取り組む 美しいビル (フィンランド)



フィンランドの古都トゥルクにあるヴェリタス・ビルは、太陽の光で色調が変化するファサードが美しい建物です。ヴェリタス年金保険会社本社が置かれるこのビルは、建物の環境保全と持続可能性を徹底的に追求するという理念の下で建設されました。同ビルには、当社グループのソーラーコントロールガラス等の高機能ガラスが数多く使用され、CO₂排出削減等に大きく貢献しています。

このヴェリタス・ビルは、こうした環境負荷低減への取り組みが評価され、Breeam(ブリーム) Excellent環境認証[※]を取得しました。

※Breeam(BRE Environmental Assessment Method):世界的な建物の環境性能評価システム

役員 (2022年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

独立社外取締役 取締役会議長	石野 博 指名委員長 監査委員 報酬委員
独立社外取締役	ヨーク・ラウパッハ・スミヤ 指名委員 監査委員 報酬委員長
独立社外取締役	皆川 邦仁 指名委員 監査委員長 報酬委員
社外取締役	黒井 義博
独立社外取締役	浅妻 慎司 指名委員 監査委員 報酬委員
取締役	森 重樹 指名委員 報酬委員
取締役	細沼 宗浩
取締役	トニー・フラッジリー

執行役

代表執行役社長兼CEO	森 重樹
代表執行役副社長兼COO	細沼 宗浩
執行役常務	トニー・フラッジリー
執行役常務	レオポルド・ガルセス・カスティーリャ
執行役常務	日吉 孝一
執行役常務	楠瀬 玲子
執行役常務	岡本 久
執行役常務	ロブ・パーセル
執行役常務	フィル・ウィルキンソン
執行役	マイク・グリーンナル
執行役	小林 史朗
執行役	中島 豊
執行役	イアン・スミス
執行役	ミレナ・スタニッチ

会社概要 (2022年9月30日現在)

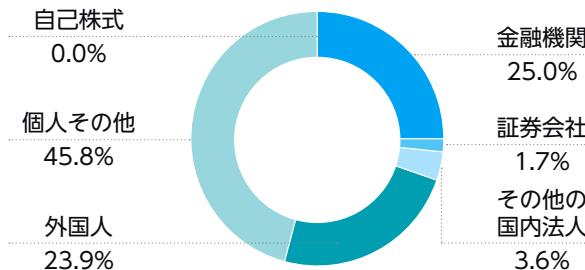
商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	24,643人
資本金	116,747百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202)
お問い合わせ	https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

株式情報 (2022年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	177,500,000株
発行可能種類株式総数	普通株式 177,500,000株 A種種類株式 40,000株
発行済株式の総数	普通株式 91,146,999株 A種種類株式 30,000株
株主数	普通株式 48,712名 A種種類株式 3名

所有者別の持株比率(普通株式)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 https://www.nsg.co.jp/
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(郵便物ご送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話ご照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00(土日休日を除く)

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、上記の電話ご照会先までお問い合わせください。

株主総会資料の電子提供制度がスタートします！

会社法改正により、2023年3月以降に開催される株主総会から、株主総会資料の電子提供制度が導入されます。本制度に関するリーフレット(一般社団法人信託協会発行)を同封しておりますので、ぜひご参照ください。

※電子提供制度は、株主総会資料を自社のホームページ等のウェブサイトに掲載し、株主の皆様には当該ウェブサイトのアドレス等を書面で通知する方法により、株主総会資料をご提供することができる制度です。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

